

○ 今月のみことば

O. H

『わが子よ、主の論しを拒むな。主の懲らしめを避けるな。かわいい息子を懲らしめる父のように 主は愛する者を懲らしめる。…… わたしはあなたに知恵の道を教え まっすぐな道にあなたを導いた。…… 神に逆らう者の道を歩くな。悪事をはたらく者の道を進むな。それを避けよ その道を通るな。…… 神に従う人の道は輝き出る光 進むほどに光は増し、真昼の輝きとなる。』 箴言 3章～4章(抜粋)

先日、親の暴行・虐待で命を奪われた、幼い5歳の女の子・結愛ちゃん。彼女の残されたノートにあった『もうおねがい ゆるして ゆるしてください』という悲痛な叫びは、涙なしには読めない。大人(親や教師)に求められる厳しさ。それは子どもや生徒を傷つけたり、死に追いやるものであってはならない。

“父の日”が近い。

自らを厳しく律し、子ども達にもそれを要求した父を思い出す。その厳しさは、私にはある意味鬱陶しかった。叱責される時は常に、彼の前に正座し、その話を聞いたものだ。しかし同時にとても子煩悩で、修道院以外に、周囲に民家の無い、野中の一軒家で暮らす4人兄弟のために、庭に鉄棒やブランコ、ツリーハウスや雨の日に遊べる小さな小屋まで造ってくれたものだ。

父が逝って8年が経つ。私の還暦を祝う誕生日のパーティーで、大いに食べ、飲んで、翌日入院。入院8日目で「病者の塗油の秘跡」＝(病気に苦しむ人を励ます恵みをもたらす“しるし”)を受けた翌朝、目覚めた父は、自分がまだ生きている不思議に喜び感動し、“素晴らしい朝！！”と叫び、2日後に天国に旅立った。

95歳で逝った父の歳まで生きる自信はないが、最近、父から学び、受け継いだもの・事柄をしばしば振り返る。

小学5年生の時、東京での寮生活を希望し、中1から上京することを父に願った際には、日ごろのだからしない生活を指摘され、一念発起。とにかく近所の3つの村で、早朝の新聞配達を引き受け、やり続ける事で、自身の“自立”を証明しようとチャレンジしたものだ。その結果、中2の春にようやく上京を許される。しかし随分後になって、父が、長男を手放す涙の日々を淋しく日記に綴っていたことを知り、心が動いたのを忘れない。

大学を終え、いよいよ就職というとき、久しぶりに家に戻った私に、父がくれた『2つの論し』。

その①・『神を畏れ、神以外のものを恐れるな！』

その②・『人と別れる時は、常に、これが最後！ と心得よ！』

今も、確と心に刻んでいる。

子どもや生徒を愛する事は責任を伴う。相手の人格を尊ぶからこそ、その自由を尊重し、責任も求める。とりわけ大人になれば“責任を追求することなしに愛はない”。しかし、幼子を追い詰めるのは問題外。子

どもや生徒を“まっすぐな道”に導く、真に厳しい大人でありたいと切に願う。

生徒の心に語り掛けたいこと

… 私の「青春」時代 …

N.M

今年の学園祭のテーマは「青春」ですね。この機会に、自分自身の中学校から大学までの学校生活を振り返ってみました。

まずは中学時代。小学生の頃は勉強が好きではありませんでしたが、中学生になって得意な教科が増え、今までで1番勉強したかもしれないと思うほど勉強しました。部活動は3日ほどバレー部に所属していましたが、自分に向いていないと感じたため、すぐに陸上競技部に転部し、3年間仲間と練習に励みました。部活動での1番の思い出は、中3の時の中学総体で団体優勝したことです。最後の種目4×100mR(リレー)で後輩と一緒に大声で校歌を歌って応援し、第4走が1位でゴールテープを切った時は本当に感動しました。もちろん、いいことばかりではなく悩み事もありましたが、それらを乗り越えたからこそ精神的に強くなれたと思っています。

充実した中学校生活を終え、大きな夢と希望を抱いて高校に入学しました。中学とは比べものにならないほど科目数が増え、毎日の予習・復習がとても大変でした。高2のクラス分けでは、1位の差で入りかけたクラスに入れず涙を流しました。中学時代とは違い、悔しい思い出が多い高校時代でしたが、悔しい気持ちがこの後に続く大学生活を大きく変えてくれました。

大学進学のために初めて親元を離れ、関西へやって来ました。新しくできた友人たちは他大学のサークルに入ったり、アルバイトを始めた中、私は1つでも上のクラスへ上がるため学業に専念しました。4年間学生寮に住んでいたため、試験前は台所に集まり皆で夜遅くまで勉強し、授業も興味があるものは全て履修しました。そんな4年間には人生を変えるほどの出会いがありました。それは、私が1番尊敬する先生との出会いです。廊下でよくすれ違う教授だったのですが、容易には近寄れないオーラを放っていて、そのオーラの正体にとっても興味がありました。授業を取ってみると、90分の授業は非常に質が高く、1分たりとも退屈することがありませんでした。教授に認めてもらう努力を2年間続けた結果、4回生では教授のゼミに所属することができ、私は今でもそのゼミに所属したことを誇りに思っています。

さて、皆さんはこれからどんな人生を送っていきますか。楽しいことばかりの人生はありません。困難に直面した時に何を考え、どう行動するかが皆さんの力となります。愛徳生全員の人生がカラフルなものとなりますように！